

## 第2期都筑区地域福祉保健計画素案に対する区民意見の募集結果

### 1 区民意見募集期間

平成23年1月4日（火）～1月25日（火）

### 2 ご意見をお寄せくださった方の人数と内訳

22人（男性12人、女性8人、不明2人）

### 3 男女別・年齢別（単位 人）

	男性	女性	不明	計
30歳代	1	0	0	1
40歳代	0	1	0	1
50歳代	1	1	0	2
60歳代	2	2	0	4
70歳代	4	1	0	5
不明	4	3	2	8
計	12	8	2	21

### 4 提案方法

素案に添付のはがき 16通

Eメール 5通

封書 1通

FAX 0通

### 5 意見募集項目

(1) 第2期計画の「取組の3つの方向性」や考え方について

(2) 第2期計画の主な取組について

(3) その他自由意見

## 1 第2期計画の「3つの方向性」や考え方について

### <意見内容>

- ・良い、妥当だと思う。(3件)
- ・充実できると大変良い。
- ・20万都市に向けての課題が良く整理されていると思う。
- ・よくまとまっていると思う。後はこれを地域で、区役所の応援を受けながら、「どう実現させる実行計画を作り、みんなで行動に結び付けていくか」ではないかと思う。
- ・まさに都筑区が足りてないことが計画されているので素晴らしい計画内容だと思う。
- ・方向性3を中心に据えた方が良いのではと思う。
- ・3つの方向性が区民に浸透できれば、より暮らしやすい安心できる地域になると思う。
- ・人との関係の希薄さ、支援が必要な人に手が届かないのもどかしさを感じているので、良い方向性だと思う。
- ・支援が必要な人に支援が届く仕組みづくりは、方向性1の顔の見える地域づくり、方向性2の幅広い参加が出来てくると解決しやすくなると思う。
- ・都筑区、横浜市に限らず、3つの方向性は必要になってきていることと思う、進めるべき。

### <対応・考え方>

- ・第2期計画では、第1期計画の取組等を通じて明らかになってきた都筑区の課題に対応できるよう、この課題に対応する「顔の見える地域づくり」、「幅広い区民参加」「必要な人に支援が届く仕組みづくり」の3つの方向性に基づき、具体的な取組を進めてまいります。

## 2 第2期計画の主な取組について

### (1) 方向性1「顔の見える関係づくりを進めます」の取組事項に関わる意見

#### <意見内容>

##### ア 自治会町内会の加入促進について

- ・町内会の加入促進の取組として、町内会に加入することのメリットを明記し、PRすることが、重要な方法と考える。
- ・多くの人に自治会活動に参加して、知ってもらうことが必要。
- ・自治会町内会が何をしているのかをもっとアピールした方が良いと思う。私も参加して初めて町内会費で近隣の電灯の電気代を支払っていたことを知った。

##### イ 地域懇談会について

- ・地域懇談会は何回か参加したが、取り上げられた意見がその後どうなったのか分からない。
- ・地域懇談会の意見にあがった課題の解決報告等もあればありがたいと思う。
- ・地域懇談会に2、3度参加して、地域の活動に参加するのは簡単ではないが、色々な活動を知ることが大事だと思う。できることからやっていたらと思う。

##### ウ 情報の共有について

- ・情報伝達方法については、個人によってニーズや必要とする時期が異なるので、一挙にまとめて成果品を配布する方式より、インターネット検索のように、必要な人が必要を感じた時に検索する方式が有効と思う。
- ・地域福祉保健活動を進めていくうえでの「情報の共有」については、一番地域の情報をつかんでいるのは区役所であり、計画推進上でその情報をどう活用するのが最適なのか、もう少し各部署で持っている情報を共有してもらえたら、素晴らしいと思う。

・自治会町内会の立場からいえば、「情報（活動内容）の発信」は不得手であり、情報の共有もまだまだ不十分。努力をしていますが、やっとスタートに立った段階。区役所が率先して、縦割りの弊害から脱却し、そのことがいかに地域（区民）に役立つかを知らせるべきと思う。まだ、不十分である。

#### <対応・考え方>

・自治会町内会への加入促進に向けては、地域と区役所など関係機関が協力・連携し、自治会町内会のPRや魅力ある組織づくり、身近な課題への解決能力の向上などの取組を進めてまいります。

・地域懇談会での意見や課題解決報告については、連合町内会長会議をはじめ、各種団体の連絡会議での報告や来年度から発行いたします地域情報紙、計画発表会での報告等により、共有化を進めてまいります。

・情報共有の仕組みづくりについては、学校、商店、公共施設など地域の様々な資源をインターネット、パソコン・携帯電話のメール送信など様々な媒体を活用した地域での情報共有の仕組みづくりを地域や関係機関と連携・協力して進めてまいります。また、地域情報の把握や共有化をはじめ、区役所全体としての連携や支援体制づくりをさらに進めてまいります。

いただいたご意見は、今後計画を具体的に進めていく中で、活かしてまいります。

#### (2) 方向性2「幅広い区民参加で活動や取組の輪を広げます」の取組事項に関わる意見

#### <意見内容>

・ボランティア活動は、頻度や負荷が大きくなると疲弊する。あまり手を広げ過ぎると長続きしないので、案にある4つの目標は必要十分と考える。

・地域には様々な団体があり重なる部分も多いので、役割分担等を事前に取り決めていく必要があると思う。

・地域の輪を一番つくりやすいのは女性の方々ではないかと思う。それを核にして輪を広げるように企画してはどうか。男性はそれに追随するはず。

・地域の子育て事業に参加すると、参加者の「来てあげている」という態度が見られがっかりするとの声が多い。誰かに助けられ、誰かを助けているという意識を住人同士が同じように持ってくれれば良い。

・「若い世代の参加」は理想だが、現実には難しい。むしろ時間が有り、力が残っている60代をターゲットにした核をつくるような企画をする方が現実的と思う。

・町会役員や消防団活動をしているが、もっと同年代（30代後半）に地域と関わって欲しいと思っている。

・若い世代（子育て世代）は面倒で自分には関係ないと思って町内会に参加しない方が多数を占めると思うが、学校などのイベントで子どもを通して地域と関係させるのはとても良い案だと思う。現在、自治会長後任を探しているが、一度やると何年も頑張らないといけないと思ってしまうと若い世代からはなり手が出てこない。一年の輪番制だったら一年だけ頑張ってみようという思いも生まれるのではないかと。輪番制だと引継ぎ部分で問題が起きやすいが、新・旧役員の方と3～6ヶ月のダブリ期間を設けることで少し解消できると思う。負担を減らし、みんなが経験者となることで地域参加へのきっかけづくりがうまく出来ると良い。

・築20年位たったマンションでは、子育ても一段落した人が多く、日常は仕事を中心だが休日の行事の開催など地域に目を向ける方は多くなる。そんな世代をうまく取り込めると本人も気づかないうちに担い手になっている。本人も気づかないくらいの負担が理想。

・地域活動に参加してもらうためには、催事に誘っても、一人にしないように、そばで話しかけるようにしていなければ、その時は来てくれても、次回は来なくなってしまうので、常に参加する気持ちになってもらうようにコミュニケーションをとることが大事。

・隣人祭りのような取組が進められると、若い世代も参加しやすいと思う。

・共働きの核家族の割合が圧倒的に多く、日中地域にいるのは、高齢者と子ども、子育て世代の母親が圧倒的であり、最大の力を発揮する人材資源は中高生であり、中高生に地域の中で、自信の果たしうる役割について自覚を促すためには、地域の「祭り」などの行事への参加といった生半可なことではなく、都筑区内の全中学・高校が参加する防災訓練を実施し、中高生は全員自宅の避難先として指定されている防災拠点で防災指揮下に入り、要支援者への避難支援にあたってもらうことである。こうした訓練を重ねることにより、中高生にも地域の実態についての認識が深まり、ボランティア意識の高揚も期待できるのではないか。

・第1期計画の区民認知度はどのくらいか。計画の周知・PRに力を入れてはどうか。

#### <対応・考え方>

・中高生の災害時の活動については、計画素案 P.27 の「お祭りなどの地域行事等に、中学生、高校生のボランティアの参加を進めます。」を「お祭りなどの地域行事や防災活動などの地域活動に、中学生、高校生のボランティア参加を進めます。」に改めます。

・計画については、マスコットキャラクター「つづき あい」を活用し、今年度から開始しました「あいちゃんボランティア」の登録の呼びかけチラシを約 10,000 部配布などの PR を行っています。また、来年度からは計画の推進情報を区内で共有するために情報紙を発行します。情報紙については、地域ケアプラザと区役所が連携し、情報が届きにくい自治会町内会未加入マンション等の集合住宅を中心に、自治会町内会への加入を働きかけるとともに、情報提供を進めていきます。いただいたご意見は、今後計画を具体的に進めていく中で、活かしてまいります。

### (3) 方向性3「必要な人に支援が届く仕組みづくりや取組を進めます」の取組事項に関わる意見

#### <意見内容>

・支援が必要な人の把握、情報提供、支援が届くことが速やかに具体化し、実現されることを切望する。

・災害などが起きた時に行政だけでは全てはまかないきれないので、隣近所が親密で無くとも、ある程度知った中であれば、お互いに助け合いが出来るので地域との関係は大事にした方が良く思う。

・要援護者の把握は難しく、ボランティアでは限界があり、ぜひ自治体に主導して欲しい。行き過ぎた個人情報保護が壁になっていると思う。

・青少年指導員や体育指導委員、民生委員児童委員など、いろいろ地域のために活動しているのだが、その活動がみんなに知られていないのも課題だと思う。

#### <対応・考え方>

- ・災害時の要援護者情報については、日頃から支援が必要な人への取組を進めるため、公的サービスの利用申請時の機会を捉えて、同意のもとに地域関係者につなげていくことや、災害時の要援護者の把握における行政が保有する名簿の同意確認など、区役所をはじめとする公的機関と地域関係者による情報の共有化や連携強化を進めてまいります。
  - ・民生委員児童委員等の地域活動者のPRについては、活動内容や地区担当者を地域住民に広く知ってもらえるよう地域と各団体、区役所が連携し、広報・PRを充実してまいります。
- いただいたご意見は、今後計画を具体的に進めていく中で、活かしてまいります。

#### (4) その他、取組全体に関することについて

##### <意見内容>

- ・欲張れば切りがないので、費用対効果から判断すると十分な取組項目だと思う。
- ・基本理念と7つの目標が継続され、実行できることを望む。
- ・速やかに実現されることを待ちたい。
- ・目標を掲げるだけでなく、実行出来れば良い。
- ・地域によって特性があり、高齢者が多い地域では、子ども、青少年の健全な成長や自立支援は考えられないので、その地域にあった取組を進めていけば良いと思う。
- ・5年間の活動の中で「都筑区の課題」が解っただけに、地域を巻き込んで共に実施する視点をもう少し強く出しても良かったのではと思う。
- ・平成23予算案において、区役所の各課各係がどの予算で、この計画のどの部分をいつまでにどのような成果指標で達成しようとしているのか公表する必要があるではないか。
- ・取組項目については、自治会町内会など地域の組織と区役所が地域の実情に応じて取組を進めていくためには、地域の組織と話し合い、検討・調整する場が必要ではないか。
- ・計画の中の個々の事業において、自治会町内会とどのように協働するのか具体的な方法を述べてほしい。
- ・地域福祉の推進のために専門的な知識と実行力を持つ職員の養成が必要だと思う。
- ・区役所は地域の行っていること、他の部署のことを把握して、日々の仕事に取り組んでほしい。

#### <対応・考え方>

- ・地区ごとの特性に応じた取組や地域での実施については、第2期計画においても引き続き策定いたします地区ごと目標や取組を定めた「地区別計画」の中で盛り込んでいきます。
- ・区役所が主体となって編成する「個性ある区づくり推進費」の平成23年度予算は、3月の横浜市会の議決を経て、都筑区役所のホームページで公表いたします。また、計画に関わる各事業は、各年の区政運営方針等により公表してまいります。
- ・区連合町内会会議等で意見を伺うことや、「地域懇談会」・「地域のつどい」などの話し合いの場をつくること、また、地区連合町内会会議・地区民生委員児童委員協議会会議等に区役所職員が外向き話し合うことなどを進めるなかで、地域の実情に応じた取り組みについて、地域との検討・協議を進めてまいります。自治会町内会との協働については、地域懇談会等で、地域の課題解決について検討・協議を進めるとともに、個別の事業においては、関係する部署が、具体的な取組内容について、当該自治会町内会との話し合いにより進めてまいります。

・区職員を対象とした研修を実施し、地域での関係づくりを進めていくための意識やスキルを更に高めていきます。また、地域情報の把握や共有化をはじめ、区役所全体が連携し、支援体制づくりをさらに進めてまいります。

いただいたご意見は、今後計画を具体的に進めていく中で、活かしてまいります。

### 3 その他 自由意見

#### <意見内容>

- ・現在、災害時要援護者支援事業の立ち上げに苦慮している。
- ・日頃から区役所職員からいろいろときっかけづくりをしてもらい、感謝している。
- ・私の所属する自治会は機能し、それなりの成果も上がっていると自負しているが、この手の活動にはゴールはなく、粘り強く「より良いコミュニティ」を目指し、努力することが必要だと思う。
- ・ぜひこの計画を成功させよう。私も微力ながら、地域のために頑張ろうと思う。安心、安全で他の区、市、県、国が羨むような都筑区になって欲しい。
- ・福祉保健計画は理想と現実の中でいつも解決しづらい問題を多く含んでいると思うが、少しでも前に進めると良い。
- ・第1期計画が始まった頃は、簡単にできるのかといった疑問と、福祉保健センターが、区役所、地域をリードしていくことになるのではないかと冗談まじりで言うくらいのインパクトを感じたが、多少の困難を乗り越えてきて、今は良かったと思う。都筑区の5年間の歩みは、充分評価に値するものとみている。
- ・10年以上も前には、自治会・町内会の結成や活動に対しては、行政としては「自治会町内会は任意の自主的な団体であるから、あまり踏み込まない。」という姿勢があり、現在の様な「協働」という認識はあまりなかったような気がするが、この計画が出された頃から大きく変わってきたと思う。真の「協働」とは、お互いが、「本気になって、手を抜かないで、それぞれの役割をきちんと果たしていくこと」でなければならないと思う。
- ・川と地域周辺は道路事情が悪く、幹線道路でも歩道の設置は少なく、歩行者は危険を伴っています。歩行部分について、白線で区分出来ればありがたいと思う。
- ・区役所と地域組織が協議し、調整する場については、計画の取組促進だけでなく、ハードのインフラ整備についても明らかにしていくべき。
- ・福祉保健課がリーダーシップをとって、地域（区民）のために計画の推進を図られることを期待している。
- ・福祉の手引き等毎年配布されているのか。（配布して欲しい）
- ・横浜市の条例で、横浜市民は必ず自治会町内会に参加する義務や努力の規定や、マンションなどの集合住宅は戸数に応じて必ず自治会を立ち上げる規定などを制定してもらえると良い。
- ・小学校～大学生まで、学校ぐるみでボランティア参加体験カードみたいなものをつくり、参加したボランティア活動に対して活動先でコメントの記入をもらい、学校に提出などの制度（必修）があると子供たち世代にもきっかけづくりになるかと思う。
- ・キャラクターの「つづき あい」を児童・生徒向けの教材などに使ってPRできると良い。

#### <対応・考え方>

様々のご意見は、関係部署にお伝えいたします。また、いただいたご意見は、今後計画を具体的に進めていく中で、活かしてまいります。